

進んで、情報を集め、考え、行動する子ども

～ 新聞を積極的に活用して ～

長野県上水内郡小川村立小川小学校 市川 公明

1. はじめに

小川小学校は、全校児童142名、1学年1クラスの小規模校である。「心もからだもすこやかな子ども」の育成を学校教育目標に掲げ、目標具現のための重点として「遊びの広がり・深まりと体力づくり」「豊かな学習経験に基づく表現力の向上」に力を注いでいる。

「豊かな学習経験に基づく表現力の向上」では、〈子どもたちにとって意味のある豊かな情報を収集する力の育成と、情報を精選し、取捨選択する力（資料活用能力）の育成〉をつけたい力の一つとして挙げており、NIE活動に寄せる期待は大きい。

NIE実践校1年目の昨年は、4・5・6年の3学年で新聞を活用した授業に取り組んだ。日頃、テレビ欄と4コマ漫画しか読まない児童を、いかにして新聞とかかわらせていくか悩み、試行錯誤を繰り返した。初めのうちは活字を追うことにはかなりの抵抗を示した子どもたちであったが、授業の導入に新聞を取り入れたり、NIEコーナーの設置や図書館ボランティアによる記事の紹介をしたりすることで、自分から新聞に向かう児童が増えてきた。学校では、新聞から情報を集めて感想を日記にしたり、実際の新聞を参考にして自作の新聞を作ったりする活動が定着しつつある。また、家庭でも新聞に目を通したり、親子で新聞を読んだりする児童も多くなってきた。新聞と積極的にかかわり始めた子どもたちが、そこから自分にとって必要な情報を選び、考え、行動に移していけるよう、今後もNIE活動を推進していきたい。

2. 新聞活用の環境設定

(1) NIEコーナーの設置

- ・毎朝、6年生の児童が配達された5紙の新聞を昇降口に並べ、登校してきた児童がすぐに新聞を目にできる環境を設定した。
- ・自分の興味・関心のある記事があったら、赤鉛筆で囲い、名前を記入して後日切り抜いてよいこととした。

(2) バックナンバーの保管

- ・毎朝、6年生の児童が昨日の新聞をまとめ、第2理科室のNIEコーナーに移して保管した。
- ・自由に閲覧、切り抜きをしてよいこととした。

(3) 図書館ボランティアによる記事の掲示

- ・図書館ボランティアの方々が、子どもたちにぜひ読ませたい記事を選び、環境・福祉・地域・教育などの分野ごとに掲示した。

(4) 理科コーナー

- ・理科の専科教員が、理科の学習に役立つ記事を選び出し、理科室前に掲示した。

3. 実践の概要

(1) 新聞掲示の活動（6年 始業前）

- ・毎朝配られる新聞を、6年生の係の児童がN I Eコーナーに展示した。

(2) 新聞日記（5年・6年 毎日の生活記録）

- ・家庭や学校で新聞を読み、毎日の生活記録に感想を書く。友達の前で発表したり、学級通信に載せたりした。

(3) 新聞作り（4・5年 国語、社会、特別活動）

- ・調べたことや学習したこと、行事のことを新聞にして掲示した。

(4) 新聞から情報を集めて（6年 総合的な学習）

- ・具体的な実践 参照

(5) 教科学習での活用（4・5・6年 社会、理科）

- ・新聞記事を教師が提示し、それをもとに学習を深めていく。

4. 具体的な実践

(1) 「新聞から情報を集めて」（6年・総合的な学習の時間）

① 展開の概要

時	学 習 活 動	教師の支援
1ヶ月 朝の時間	・新聞記事を切り抜き、スクラップをする。 ・感想を書き込む。	・子どもたちの感想に、もっと教えてほしいことや担任の考えを書き込み、追究したいことが具体的になるようにする。
1・2	・スクラップの中から、友達に紹介したい記事を選び、発表の準備をする。	・要点的な話し方を工夫できるよう助言する。
3・4	・友達と記事を紹介し合う。	・意見交換の時間を十分にとったり、担任が質問をしたりして、わからないことや更に調べなければならないことを明確にさせる。
5	・集めた新聞記事の中から課題を決め、調べたり、体験したりする。	・追究の計画を立て、見通しをもって課題を追究させる。
6・7 8・9 10	・本、インターネット、新聞から情報を集め、課題を追究する。	・友達との情報交換や中間発表会を設け、計画的な追究ができているか確認させる。

		<ul style="list-style-type: none"> 1時間ごとに自己評価を行い、次時の活動に役立てさせる。
11・12 13・14 15	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことを、プレゼンテーションソフトやワープロソフトを使ってまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞を参考にさせ、わかりやすく伝えるための工夫ができるようにする。
16・17 18・19 20	<ul style="list-style-type: none"> まとめたことを発表し合い、そこからわかったことや思ったことを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し方、まとめ方について評価し合う。
21	<ul style="list-style-type: none"> 単元のまとめをする 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の活動を振り返らせ、感想を書かせる。

**②記事を集めたり、友達と情報交換をしたりする中で、
自分の課題を具体的にしてい子ども**

昨年度の総合的な学習の時間の取り組みを振り返ると、次のような反省点があげられる。

- ・自分の課題がなかなか見つからない。
- ・課題を選び出すための材料が少ない。
- ・課題が漠然としすぎていて、何を調べればよいのかわからない。
- ・課題に興味・関心があまりなく、意欲的な追究ができない。 など

そこで昨年度は、福祉・環境・教育など、多くの話題を提供してくれる新聞を子どもたちの課題選びに活用したいと考えた。

新聞が配達され始めた10月から一ヶ月間、NIEコーナーや各家庭で新聞に目を通し、自分の興味・関心のある記事を選んでスクラップする期間を設けた。また、スクラップした記事の下に、感じたことや考えたことを記入させるようにした。初めのうちは、写真中心に集めていた子どもたちだったが、次第に記事に目が向くようになり、家族と一緒に記事を読んだり、わからない漢字を担当に読んでもらったりするようになってきた。また、その日の朝の新聞のことが学級で話題にのぼるようになり、「〇〇の事件よんだ?」「私も〇〇の記事を選んだよ」などの会話が自然と交わされるようになってきた。

11月の初め、今まで集めてきた記事を、感想を加えて友達と紹介し合う時間をとった。友達からの質問や意見を受けたり、同じ記事について考え方の違う友達と議論をしたりすることを通して、「詳しく調べたい」「もっと知りたい」と思える事項が浮かび上がり、より具体的な課題を据えることができた。

実践事例1 集めてきた記事についての話し合いの中で、課題を焦点化していったNさん

Nさんは、スポーツ、地域の出来事などいろいろな記事を集めていたが、次第に北朝鮮の拉致問題について関心をもち、スクラップを始めた。集めた記事の下に「かわいそう」「早く会わせてあげたい」などの自分の感想を書き、友達に紹介した。友達の意見を聞き

たり、友達のスクラップに目を通したりする中で、拉致被害者ばかりでなく、日本中には苦しんだり、悲しんだりしている家族がたくさんいることを知った。また、S紙に家族の問題を扱ったコーナーがあることを友達から教えてもらった。「家族のあり方」を追究したいと考えたNさんは、家族の心の動きに焦点を当て、両親の離婚で離ればなれになった兄弟の記事や、余命わずかな父親のために精一杯親孝行をする息子の記事などを集め、自分なりの考えをまとめていった。また、インターネットや本から家族についての情報を熱心に集めるなど、課題解決に向けて意欲的な追究を行った。

実践事例2 新聞を読み込むことで、具体的な課題を見つけたSさん

Sさんは、自分の課題をなかなか見つけられず困っていた。そこで、担任と一緒に図書館ボランティアの方々がテーマ別に掲示してある記事を数日間見ることにした。わからない漢字を担任に教わりながら記事を読み込んだり、写真をじっくりと見たりするうちに、生き物について調べたいという漠然とした課題が生まれてきた。休み時間に友達と第2理科室に足を運んで、ストックしてある新聞に時間をかけて目を通すようになり、「思っていたよりも動物の記事っていっぱいあるね」と嬉しそうに担任に話した。動物について興味をもっている2・3人の友達と集まっては、自分がスクラップした記事を交換して読み合ったり、自分の好きな動物についての話をしたりするようになり、「ペットの世話の仕方」について調べたいという課題をもち、追究を始めた。

考 察

じっくりと時間をかけて新聞を読んだり、新聞の記事をもとにして友達と意見を交換し合ったりすることで、本当に興味・関心のある課題をすべての子が見つかることができた。各分野にわたる情報量の多さ、写真やイラストなどの視覚に訴えるわかりやすさ、知りたい部分を何度でも読み返せる便利さなどの点から、新聞は、子どもたちに課題をもたせる手段の一つとして有効であると感じた。また、追究の場面においても、新聞から得られる情報は多く、課題解決のために大いに役立つと感じた。

③他者へのわかりやすさを意識しながら、まとめ、発信していく子ども

12月、自分たちの課題に沿って調べてきたことをプレゼンテーションソフト・ワープロソフトを使ってまとめる活動に取り組んだ。他者にわかりやすいまとめになるよう、新聞を参考にさせてながら(5W1H、タイトルの大きさ、写真の配置など)取り組ませた。

実践事例1 新聞を参考にしながら、まとめ方、発信の仕方を工夫したKさん

ボランティア活動について追究してきたKさんは、集めた莫大な量の情報を、どのようにしてまとめればよいか悩んでいた。新聞を参考にしよう声をかけられたKさんは、スクラップしてきた記事を赤鉛筆でなぞりながら読み返した。「伝えたいことだけを短く書けばいいんだね。」と担任に話し、インターネットや本から集めた情報を、「わかりやすさ」を意識しながら短い文に整理していった。以前、S紙が字を大きくして読みやすくなったことから、タイトルや文字の大きさを変えるなどの工夫をした。また、新聞をじっくりと

観察して写真の配置を工夫するなど、どうしたら読む人にわかりやすいまとめになるのかを考えながら活動していた。

考 察

多くの子どもたちが、漢字が読めさえすれば、新聞は要点的にまとめてあり、わかりやすいと感じている。いつ、どこで、だれが・・・といった書き出しが徐々に身につき、総合的な学習の時間に限らず、国語や社会のまとめでも新聞を参考にしながら活動する児童が増えてきた。大見出しや小見出しの位置を意識する児童もいる。見る人にわかりやすい発信の仕方を考えられるようになってきている。

5. 実践後の児童の感想（6年生）

- 総合的な学習の時間に新聞を使って調べてみて、新聞にはいろいろなことがしっかりと載っているんだなあと思いました。今、ヒマなときには時々新聞を読んでいます。新聞を読んでみて、全国のいろいろな場所や地域で福祉活動を行っているのを知り、前よりも興味をもつようになりました。
- 新聞学習をして、新聞を細かいところまで読むようになりました。細かいところまで読むと、以外に面白い記事があることがわかりました。
- テレビのニュースを見ていたから、新聞は読まなくていいと思っていたけど、新聞の方がよくわかると思いました。
- 新聞学習をやる前は、テレビ欄か4コマ漫画ぐらいしか読まなかったけど、私のテーマの「スポーツ」の記事なども読むようになり、いろいろなことを知ることができてよかったです。それに学校だけじゃなくて、家でも新聞を読むようになりました。

6. 今後の課題

現在、子どもたちは、自分から新聞にかかわることが多くなってきている。昨年度のNIE活動を通して、新聞は、総合的な学習の時間での課題選び、新聞日記による文章力の向上、各教科でのまとめ方の工夫などに有効であることがわかってきた。しかし、NIE活動のよさが数多く見えてきた反面、新聞が児童のよりよい学習材として位置づくためには、まだ多くの課題が残されている。

本年度の課題として、次の点があげられる。

- ・情報源としての新聞のより有効な活用方法の工夫
- ・同じ事実でも、新聞によって、子どもによって解釈の仕方が違うことの意味の理解
- ・得た情報の解釈、発信の仕方
- ・総合的な学習の時間だけでなく、各教科に役立てる方策 など

本年度は、実践2年目を迎える。昨年度明らかになってきた課題をもとに、本校の研究テーマに迫ることのできる新聞を教育活動に活かす活動が展開できるよう、更に研究を進めていきたい。

資料 1

新聞を切り抜く子どもたち

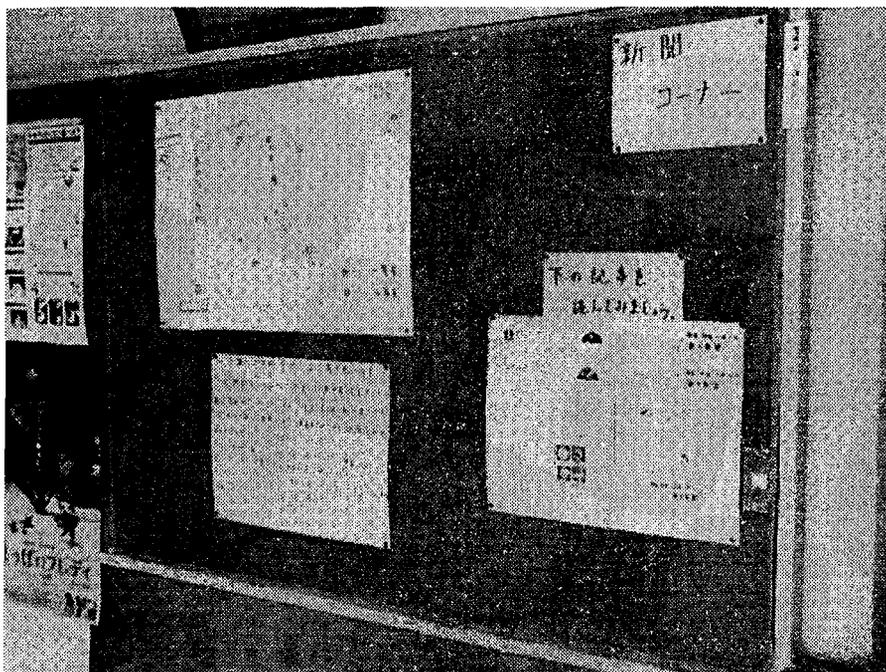


図書館ボランティアによる記事の掲示



資料 2

理科コーナー



総合的な学習の時間のまとめ



菜の花 障害者も楽しんで



小山邦武飯山市長に車いすを渡す「菜の花すくーる」のメンバー

まつり期間中トイレ掃除などの「手当」で購入 車いす4台市に寄贈

飯山の中高校生参加「菜の花すくーる」

飯山市の春の観光イベント「菜の花まつり」の期間中、主会場の菜の花公園でトイレ掃除やごみ拾いなどの活動をしている地元中高生グループ「菜の花すくーる」が二十一日夕、市役所を訪れ車いす四台を寄贈した。四台で約四万円の手当を、活動に参加すると一日千円もらえる「お手当」を、メンバーが出し合って購入したという。お年寄りや障害者の方にも、きれいな菜の花を見てもらいたい」と期待している。

菜の花すくーるのメンバーは現在、中学二年から高校二年までの男女十六人。まつり期間中の大型連休や週末の希望日に活動。今年も、多くのメンバーが三―五日参加し、八日間の「皆勤賞」もいたという。

贈呈にはメンバー十四人が市役所を訪ね、リーダーの山崎覚志君(二〇)中野実業高校二年は「僕たちの心がこもった

った長男の正輝君(現在飯山北高校一年)の授業参観をした際、元気のないう子供たちの姿を見てがく然。「小遣いやるから友達集めてトイレ掃除してみるか」と促したのがきっかけで二年前に発足した。

発足当時から、ごみ拾いで集めたアルミ缶を業者に買い取ってもらい資金にし、車いすを購入する計画があった。だが、初年度は七十五集めたものの、千五百円になっただけ。

メンバーは、まつり前の今年三月、「お手当」の見直しを話し合った。「お手当をなくして、完全ボランティアにしよう」との提案も出たが、活動に参加した初日は無給、あとは従来通り一日千円分のお手当をもらい、自主的にお金を出し合って、車いすを購入することに決めた。

「すくーる」は、同公園の菜の花育成などをしている地元瑞穂地区のボランティア「菜の花さかせるかい」の高山直樹会長(三)が、当時中学生だ

2003年 6月 23日 (信毎)

☆感想、この記事を見てどう思ったか
イベント中にみんなでごみ拾いなどをして、たまたまお金で車いすを買うなんてすごいと思った。しかも4台も買えるほどのお金かたまるなんて、そうとうがんばったなあと感じた。こういう活動が広まって、車いすだけでなく、他の事も役に立てたらいいと思う。

資料 4

友達の新聞日記を読んで

名前 _____

選んだ記事

N さんの チャイコフスキー 国際コンクールで
上原あや子さんのピアノ部門で日本人初優勝の記事

感想 (感じたこと、考えたことなど)

記事を読んで上原さんは21才なのにたくさん
の人の中から優勝したのがすごいと思
います。N さんのコメントから「演奏している所
が1度もなかったのを見てみたい」とかいて
あって私も見てみたいと思いました。

～今日のすこやかを振り返って～

M 君と T 君の感想が少ししみじみかくて
読みやすかった。

～今度のすこやか～

選んだ記事

「夕闇を切り裂く稲妻」
○6月16日午後6時49分に、鬼無里村で「稲妻」が
走った。
○長野での雷の観測は6月に入って3日目

感想（感じたこと、考えたことなど）

○私も、Sさんと同じで「大きな雷は見た事が
ないので、すごいいと思った。
○はっきりと線が見えるので、こわいと思った。
○雷が落ちなくてよかったなあと思った。

～今日のすこやかを振り返って～

- みんなの新聞日記を見ると、いろいろおもしろい
記事がたくさんあったから、またもう少したっ
てから見てみたいと思った。
- 今度はみんな（全員）の記事を見てみたい。

～今度のすこやか～